

## 札幌市立平岡中央中学校の取組【読書：図書館活用授業】

### 1. 研究のねらい

札幌らしい特色ある学校教育推進事業における【読書】の研究実践校として6年目を迎える本校は、「教育課程の展開に寄与する（『学校図書館法』）学校図書館を目指す中で、毎年重点を決めて実践を進めてきた。今年度は国語科と連携し、昨年から試行している「読書生活デザインノート」（全国学校図書館協議会 発行）の活用の在り方を探るとともにその効果の検証を目指した。学校図書館を活用した授業としては古典分野における比較読みなどを実施した。その他、国語科以外でも、学校図書館機能や学校図書館メディアの活用をあらゆる場面で働き掛け生徒の言語活動の充実を図るとともに、思考力・表現力の育成を目指した。

### 2. 取組内容

#### (1) 古典分野における比較読み

中学1年「蓬萊の玉の枝」—『竹取物語』から  
中学1年「蓬萊の玉の枝」—『竹取物語』から（『国語1 光村図書出版』）に関連して、寄託図書も利用して「かぐやひめ」という題名の、原典とする本が違う2冊の絵本、星新一訳の文庫本、漫画の計4冊を読んだ。2冊の絵本は観点を決めて違いを表にまとめた。その後、この内容や読書についての「はがき新聞」を書く言語活動に取り組んだ。「はがき新聞」では、目的に応じて必要な情報を集めることや教科書の読書活動で学んだキャッチコピーを参考に、見出しを適切につけることをねらった。



#### (2) 「読書生活デザインノート」の活用

##### ① 中学2年 「読書スピーチ」

今年度から「読書生活デザインノート」に取り組み始めた2年生では、読書をテーマにしたスピーチで活用した。

「読書スピーチ」は、図書館学習として行った読書交流会を基に次のような流れで指導した。

- ・もう一度、本を読む。
- ・「読書生活デザインノート」にメモを取る。
- ・メモを基に、スピーチの構成を考える。
- ・発表メモを書く。
- ・近くの人からメモへのアドバイスをもらう。
- ・スピーチの練習をする。
- ・メモを見ないで発表する。



【学校図書館での絵本比較】



【読書の魅力を伝えよう】

図書館学習の読書交流会は次のようなものだ。解題を基に生徒が読みたい本を選ぶ。選んだ本を指示されたポイントに従って各自が読み取りを深める。同じ本を選んだ生徒が集まり、読み取ったポイントについてディスカッションをしてワークシートにまとめる。

### ② 中学3年「読書生活をデザインしよう」

昨年度から活用している「読書生活デザインノート」を今年度も継続して使用した。昨年は学校保管とし、国語や総合的な学習の時間、朝の一斉読書で読んだ本について記入した。記入に慣れてきたので、今年は家庭に持ち帰り記入を続け、読書傾向の振り返りに生かした。2学期終了時にアンケートでおおよその傾向を捉えた。



【書き続けたノート】

## 3. 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 古典分野における比較読み

2冊の絵本を比較し観点を決めて表にまとめた。その過程で、基にした本の違いが絵本の内容の違いにつながったことを、後書きから読み取った。後書きの役割に気付くとともに、絵本の価値を見いだした生徒も多かった。その後、「はがき新聞」を完成させた。



【読書をテーマにしたはがき新聞】

#### ② 「読書生活デザインノート」

2年生では「読書生活デザインノート」を活用した授業を実施した。実際の活用場面を設けることでノートへの記載が進み、スピーチの内容も深まった。

昨年からのノートを利用してきた3年生のアンケートでは、ほぼ半数の生徒がこのノートの利用を「良かった」としており、何が良かったのかを尋ねた（複数回答可）ところ、「感想をもてる」が一番多く、次に「考える力が付く」、その後「書く力が付く」「読書傾向を振り返ることができる」が同数で並んだ。思考力・表現力の育成にも何らかの影響を与えているようだ。ノートに、「本が好きになった。」と記載していた生徒が10%程度いることにも注目したい。指導した教師、生徒から挙げられた改善点は共通していた。それは、「学校で保管して記入できるようにすること」である。アンケートでは、80%の生徒が「学校で読んだ本と自分の読んだ本の内容は違う。」と答えていた。教科・総合的な学習の時間・学活・朝の一斉読書での読書指導の結果、生徒の読む本の範囲を広げることが伺えた。

### (2) 課題

学習指導要領に基づき「読書」を「本、雑誌、新聞、調べるために何かを読むこと」と捉え、「読書パフォーマンス」を始め、新聞を含めた様々な「読書」の取組を6年間にわたって実施してきた。その集大成として、活用してきた本を中心に、今年度「平岡中央中学校推薦図書30選」を制定できた。今後の課題は、「読書」の取組を継続しながら、「学習センター」「情報センター」としての学校図書館活用を推進することである。